

世界記憶遺産登録後の取り組み

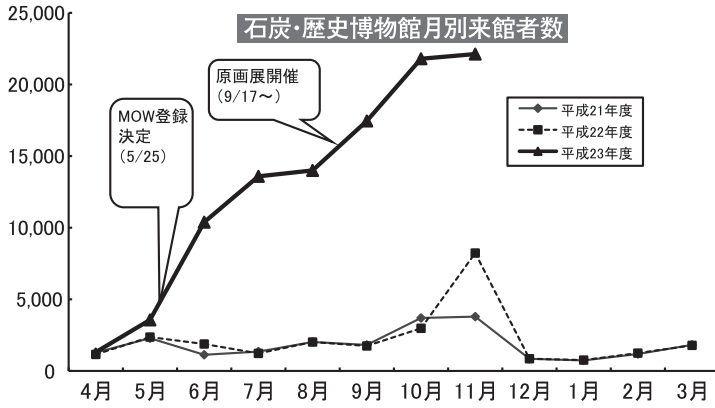
平成23年5月25日、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の世界記憶遺産に国内で初めて登録された「山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書」の登録後の本市の取り組み状況などについてお知らせします。

来館者の急増

登録後、石炭・歴史博物館の来館者が急増し、4月の1日平均来館者数は52人でしたが、6月には400人、原画の特別公開が始まってからさらに増加し、10月は838人、11月は917人となりました。

検討委員会について

世界記憶遺産の今後の保存のあり方や有効活用などを検討するため、9月15日付けで、「山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書の保存・活用等検討委員会」を設置しました。



専門部会の主な協議内容

- ① 保存調査検討部会
 - ・記録画、日記、雑記帳、原稿のそれぞれにおいて、劣化の程度が違うことから、正確な確認を行うための専門的な調査の実施を検討する。
 - ・日記、雑記帳、原稿の一部の劣

化が特に著しいことから、早急なデジタルデータ化の実施を検討する。

② 活用調査検討部会

この部会における議論範囲は広域にわたることから、一定の結論が出るまで2つの分科会に分け検討する。

○教育活用分科会

「炭坑文化の次世代への継承の観点から人づくりに関する世界記憶遺産の活用策を検討する」とした上で、「学校教育・生涯学習（ガイド養成を含む）」への活用（カリキュラム化）について検討する。

○地域活性化分科会

「まちづくりに関する世界記憶遺産の活用策を検討する」とした上で、「今後10年を見据えた際の活用計画の策定」について検討する。

③ 受入環境調査検討部会

・交通案内サインのデザインや配置について整理し、さらに市内外の施設との回遊性の確保につ

いて検討する。
・石炭記念公園のあり方を踏まえた受入環境の整備策について検討する。

④ 記念式典検討部会

・平成24年5月13日に記念式典を田川文化センターで行う。
・市民の世界記憶遺産に対する共通認識と国内外への情報発信、次世代への継承を目的とする。

原画の脆弱性について

※ここに記載している協議内容は一部のものであり、今後、市のホームページなどを通じてお知らせします。
紙には寿命があり、いつかは朽ち果ててしまいます。

作兵衛氏の描いた記録画などは、長期保存に適した紙を使用したわけではなく、どこにもある一般的なもの（酸性紙）を使用しており、極めて脆弱な状態です。
このため、保存調査検討部会の委員には、国を代表する文化財保存の専門家に参画いただき、万全の体制により専門的調査・検討を実施しています。

今を生きる我々は将来にわたって作兵衛氏が描いた「炭坑の記憶」を「世界の記憶」として後世に伝えていかなければなりません。

このことから適切な保存について全力を挙げて取り組んでいくとともに、市民のみならず、原画の脆弱性について、認識いただきたいと思えます。



▲炭坑の記録画に見入る来館者



▲第2回検討委員会（12月11日開催）